

考古学研究室報告

第 48 集

平原古墳群調査報告 1

2012年度 考古学研究室の足跡

2013

熊本大学文学部考古学研究室

表紙写真：平原古墳群遠景（大観峰から）
裏表紙写真：東1トレンチ写真撮影風景

序 文

2012年の実習発掘調査は、2008年以来4年ぶりに古墳を対象として行った。阿蘇谷の北縁、北外輪山裾の尾根上に築かれた平原古墳群である。

阿蘇は九州本島の中央に位置し、その東西南北をつなぐみちすじの結節点である。東からは大野川、西からは白川や菊池川、合志川、北からは筑後川、南からは五ヶ瀬川や緑川、こういった河川をさかのぼれば阿蘇に至るのである。古墳時代においては、とくに瀬戸内海と有明海・八代海を結ぶ東西ルートが重要であったと推察されるが、おそらくそれは阿蘇谷を通過していた。そのような地に、墳長100mを越す前方後円墳、長目塚古墳を擁する中通古墳群が営まれたのである。

平原古墳群はそうした中通古墳群の北西に近接し、お互いを視認できる位置にある。中通古墳群の北東には同型鏡をもつ迎平古墳群もあり、阿蘇谷の古墳時代を考えるうえではこれら古墳群を一体で分析することが大切である。しかし、肝心の長目塚古墳でさえすべての資料が公開されているわけではなく、ましてや平原古墳群についてはまったく情報が知られていなかった。そこで、2010年に長目塚古墳出土遺物の再整理作業に着手、2011年には平原古墳群の現地調査を開始し今年度を迎えたのである。

発掘調査の準備が終盤にさしかかった2012年7月12日、熊本を襲った大規模な水害は阿蘇地域にも甚大な被害をもたらした。宿舎としての借用をお願いしていた阿蘇市山田公民館も一時、避難所となった。そのとき約1ヶ月後に迫った発掘調査を延期あるいは中止すべきではないかとの思いが頭をよぎったが、古墳群の地元、山田地区の方々からの本当にあたたかいご援助を受け、また災害復旧にお忙しい阿蘇市教育委員会の皆様からも惜しみないご支援を受け、なんとか当初の予定通りに調査を実施することができた。そのような大変な状況のなか、調査成果に強いご関心を示して下さる地域の人々の姿は、あらためて歴史学が果たすべき役割を思い起こさせると同時に、人類史の解明が究極の目的ではあるが歴史学の根源にはつねに地域が存在することを強く私に認識させた。こうした地域とのふれあいのなかから調査に参加した学生も何かを感じ取ってくれていることを切に願う。

新たなフィールドにいどんだ今回、なんとか順調に現地調査および整理作業を行うことができたのは、じつにさまざまな方々からのご厚意を受けることができたおかげである。お世話になったすべての方々に深甚なる感謝の念を捧げるとともに、今後の調査・研究の遂行に対してもきびしいご指導をお願いしたいと思う。

2013年1月15日

杉井 健

平原古墳群調査報告 1



現地説明会風景 2012/9/1

例 言

1. 本書は、熊本県阿蘇市山田字平原に所在する平原古墳群の調査報告書である。これには平原490番地に所在する6号墳の発掘調査のほかに、6・7号墳の測量調査の成果も含まれる。
2. 調査期間は、測量調査が2011年10月14・16・23日、11月1～7日、2012年4月29・30日の計12日間、発掘調査が2012年8月19日から9月15日までの計28日間である。
3. 調査は熊本大学文学部考古学研究室を主体とし、阿蘇市教育委員会の協力を得て実施した。調査には科学研究費補助金（基盤研究B・研究代表者杉井健および基盤研究A・研究代表者福永伸哉）の一部を使用した。
4. 調査担当者は、測量調査のうち2011年度実施分が杉井健（熊本大学文学部准教授）と山野ケン陽次郎（同社会文化科学研究科博士後期課程大学院生）、2012年度実施分が杉井と安田未来（同社会文化科学研究科博士前期課程大学院生）、発掘調査が杉井と安田である。
5. 平原古墳群に対する考古学的調査は、今回の調査以前にも実施されている。それを含めて、次のように調査次数を整理する。
 - 第1次調査 調査年：1981～1983年
調査内容：1981年 1号墳の発掘調査
1982・1983年 2～4号墳（4号墳は現在の6号墳に一致）の測量調査
調査主体：1981年 熊本県教育委員会
1982・1983年 熊本短期大学（現熊本学園大学）文化財研究会
 - 第2次調査 調査期間：2011年10月14・16・23日、11月1～7日、2012年4月29・30日
調査内容：6・7号墳の測量調査
調査主体：熊本大学文学部考古学研究室
 - 第3次調査 調査期間：2012年8月19日から9月15日
調査内容：6号墳の発掘調査
調査主体：熊本大学文学部考古学研究室
6. 本書におけるレベル高はすべて海拔を表し、方位は国土座標（2系）の北を示す。
7. 土層名の色調は『新版標準土色帖』による。
8. 第1・2図は国土地理院発行の5万分の1地形図（八方ヶ岳・菊池・御船・宮原・阿蘇山・高森）を、図版1-1は国土地理院保有の米軍撮影空中写真（USA-M100-49、1947年3月4日撮影）を複製したものである。
9. 葺石石材の鑑定において、渡邊一徳先生（熊本大学名誉教授）からご教示を賜った。
10. 調査および合宿、整理作業の実施にあたっては、以下の諸氏・諸機関からご協力とご援助を賜った。
宮本利邦（阿蘇市教育委員会）、緒方 徹（阿蘇世界文化遺産推進室）、池浦秀隆（阿蘇神社）、上野淳也・田中裕介・玉川剛司（別府大学）、竹中克繁・西嶋剛広（宮崎市教育委員会）、檀 佳克（熊本市教育委員会）、廣石勝之、大田黒元吉、佐伯朋史、日野満司、阿蘇市山田地区の方々、阿蘇市教育委員会、阿蘇世界文化遺産推進室、阿蘇神社、国立阿蘇青少年交流の家、阿蘇市山田公民館
11. 調査参加者は以下の通りである（所属は当時）。
 - 第2次調査（2011年10・11月）：杉井健（熊本大学教員）、山野ケン陽次郎（同社会文化科学研究科博士後期課程3年生）、柴田亮（同社会文化科学研究科博士前期課程1年生）、原田孝典（同文学部3年生）、入江由真・岡田有矢・河村美沙・黄訳民・原梓（同文学部2年生）、金田拓也（福島大学地域政策科学研究科修士課程1年生）
 - 第2次調査（2012年4月）：杉井健（熊本大学教員）、栗林沙希・安田未来（同社会文化科学研究科博士前期課程1年生）、甲斐郁（同文学部研究生）、原梓・與嶺友紀也（同文学部3年生）
 - 第3次調査（2012年8・9月）：杉井健（熊本大学教員）、栗林沙希・安田未来（同社会文化科学研究科博士前期課程1年生）、甲斐郁（同文学部研究生）、鬼木しおり・留野優兵（同文学部4年生）、入江由真・岡田有矢・河村美沙・黄訳民・原梓・森拓馬・與嶺友紀也（同文学部3年生）、片山弘喜・富高敦史・中村聖美・山元瞭平（同文学部2年生）
12. 本書の編集は杉井健の監修を受けて安田未来が担当した。執筆分担は目次および各文末に示した。

本文目次

一 位置と環境	1
1. 地理的環境	1
(1) 位置と地形	森 拓馬・片山弘喜 1
(2) 地質	中村聖美 2
2. 歴史的環境	4
(1) 弥生時代以前	富高敦史 4
(2) 古墳時代	河村美沙 5
(3) 奈良時代以降	山元瞭平 15
二 調査経過と古墳分布	杉井 健 16
1. 過去の調査 (第1次調査)	16
2. 今回の調査 (第2・3次調査)	18
3. 古墳の分布と号数	20
三 墳丘の構造	22
1. 墳丘の現状	河村美沙 22
2. トレンチの設定	黄 沢民 22
3. 調査の所見	24
(1) 東1トレンチ	原 梓 24
(2) 北1トレンチ	森 拓馬 26
(3) 西1トレンチ	岡田有矢 26
4. 墳丘形態の復元	安田未来 27
四 出土遺物	30
1. 壺形埴輪	入江由真 30
2. 土師器	與嶺友紀也 35
3. 出土遺物の時期	與嶺友紀也 35
五 まとめ	安田未来 36

図版目次

図版1	1 空からみた平原古墳群とその周辺 (丸が平原古墳群、右下隅に中通古墳群) (1947年3月4日撮影)
	2 平原6号墳の現状 (北西から)
図版2	1 東1トレンチ葺石 (上が西)
	2 東1トレンチ葺石立面 (東から)
	3 東1トレンチ全景 (南東から)
図版3	1 北1トレンチ全景 (上が南)
	2 北1トレンチ葺石立面 (北から)

	3	北1トレンチ全景（北東から）
図版4	1	西1トレンチ全景（上が東）
	2	西1トレンチ2段目葺石と段築テラス面（西から）
	3	西1トレンチ断ち割り部（南西から）
図版5	1	北1トレンチ壺形埴輪出土状況
	2	西1トレンチ壺形埴輪出土状況
図版6		平原6号墳出土壺形埴輪（1）
図版7	1	平原6号墳出土壺形埴輪（2）
	2	平原6号墳出土壺形埴輪（3）
図版8	1	平原6号墳出土壺形埴輪（4）
	2	平原6号墳出土土師器

挿 図 目 次

第1図	阿蘇地域の地形と平原古墳群の位置……………	（片山製図）……………	1
第2図	平原古墳群周辺表層地質図……………	（中村製図）……………	3
第3図	阿蘇地方の古墳分布図……………	（山元作成）……………	6
第4図	平原古墳群を示した遺跡地区の比較……………	（杉井作成）……………	16
第5図	熊本短期大学文化財研究会による平原2～4号墳測量図……………		17
第6図	2011年公表の平原6・7号墳測量図……………		17
第7図	平原6・7号墳測量図（東側の円丘が6号墳）……………		23
第8図	トレンチ配置図……………		24
第9図	東1トレンチ平面図・断面図・立面図……………	（原製図）……………	25
第10図	北1トレンチ平面図・断面図・立面図……………	（森製図）……………	25
第11図	西1トレンチ平面図・断面図・立面図……………	（岡田製図）……………	27
第12図	平原6号墳墳丘形態復元図……………	（杉井作成）……………	29
第13図	平原6号墳出土壺形埴輪実測図……………	（與嶺製図）……………	31
第14図	平原6号墳出土土師器実測図……………	（入江製図）……………	35
付 図	図版写真と実測図番号の対応……………	（山元製図）……………	

表 目 次

第1表	阿蘇地方の古墳地名表（1）～（6）……………	（河村・黄・富高作成）…	7～13
第2表	平原古墳群に分布する古墳号数の変遷……………	（杉井作成）……………	18
第3表	平原古墳群基準点の現場座標……………	（杉井作成）……………	19
第4表	平原古墳群基準点の国土座標（世界測地系）…	（杉井作成）……………	19
第5表	平原6号墳出土壺形埴輪一覧表……………	（入江作成）……………	33
第6表	平原6号墳出土土師器一覧表……………	（與嶺作成）……………	35